

* 萩原台長のマンガ

アーカイブ室新聞第410号(2010年12月24日)に「萩原雄祐ゆかりの20cm屈折望遠鏡を収蔵」という記事を書いた。この記事を読んだ熱心なアマチュア天文家が昔の雑誌に面白い記事があったと知らせてくれた。このアマチュアは古い天文記事を収集することを趣味にしているお方で、今まで何度も歴史的な記事を寄せてくれている非常にありがたい存在である。今回は「子供の科学」昭和26年(1951年)2月号に「萩原台長がマンガで出ています」とコピー(写真1)を送ってくれた。



写真1 マンガで登場した萩原元台長

萩原雄祐氏は、戦後の東京天文台復興に尽力された大恩人で、昭和 24 年（1949 年）には乗鞍コロナ観測所を設置、昭和 35 年（1960 年）には岡山天体物理観測所を設置（この時には台長を辞されていたが）された元東京天文台長である。ご専門は天体力学で大きな業績をあげているが、その弟子は天体力学だけでなく天体物理学を進めていった。萩原雄祐は、日本は世界の鼎の 3 脚の 1 脚に位置しており世界に伍して研究できる望遠鏡を建設しなければならないとして、乗鞍コロナ観測所、岡山天体物理観測所、堂平観測所、木曾観測所までは彼の構想に入っていた望遠鏡群である。昭和 21 年（1946 年）に東京天文台長となり、昭和 32 年（1957 年）に定年退官後東北大学教授、昭和 35 年（1960 年）には宇都宮大学学長となられ昭和 39 年（1964 年）に任期満了で退官されている。この間昭和 29 年（1954 年）には文化勲章を受章されている。

このような輝かしい経歴、業績を残した大研究者の一面がうかがえて、萩原雄祐が建設した岡山天体物理観測所で天文台人生を始めた筆者にとっては非常に懐かしい思いがするのである。写真 2 は東京天文台 100 周年記念誌の萩原雄祐の写真である。



萩原雄祐（五代）

写真 2 萩原雄祐

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp